

JOEM技術研修会開催案内

『 2025 年 光応用技術研修会 』

講義日時：2025年6月 3日(火) 10:00~17:20
 4日(水) 9:00~18:00
 5日(木) 9:00~18:00
 9日(月) 9:00~18:00
 10日(火) 9:00~18:00
 11日(水) 9:00~17:20
 12日(木) 9:00~16:50 計7日間

講義会場：Microsoft Teams

試験日時：2025年7月10日(木) 10:00~17:00
 11日(金) 10:00~17:00 計2日間

(講義, 試験ともに昼食1時間および休憩を含みます。)

試験会場：機械振興会館 6階66号室・67号室 (東京都港区芝公園3-5-8)

※ 3人掛けの机を2人掛けといたします。

※ 当会における新型コロナウイルス対策及び対応については下記のURLをご覧ください。

<https://www.joem.jp/files/libs/1033//202501060935373373.pdf>

本 研 修 会 の 目 的

光応用技術研修会は、オプトメカトロニクス技術関連の若手技術者育成に対する導入教育の役割をもち、光技術の全体にわたる概括的講義を網羅して、その分野の概要をつかむことを目的としております。

このような観点から、光に関連するメーカーと学識経験者のご協力を得て、1963年(昭和38年)以来、2020年を除き毎年開催しており、これまでに約10,500名が受講されております。

オプトメカトロニクス産業の変革に対応していける基本知識とビジョンをもった技術者の養成は、欠くことのできないものであり、本研修会を社員教育の一環として取り入れている企業もごございます。

光学の基礎から応用、周辺技術までを学べる本研修会に、ぜひ多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。

お 知 ら せ

- (1)「測光」は小山元夫先生から中島康晴先生へ交代いたしました。
- (2)「光学ガラス」は上原 進先生から小栗史裕先生へ交代いたしました。
- (3)「特別講演」は蚊野 浩先生から内田孝幸先生へ交代いたしました。
- (4)「LEDの発光特性」は「発光ダイオード」に科目名を変更いたしました。

※ 2023年度より受講者全員に前年度のテスト模範解答集を配布するよういたしました。

※ 当協会の人材育成事業は右記のURLをご覧ください。 http://www.joem.or.jp/jinzai_ikusei.htm

本 研 修 会 の 特 色

- (1)社内の光学研修を受けた方でも、さらに知識を広げ深めていただけるように、本研修会は光学技術全体を網羅しており、かつ著名で実務経験の豊富な一流の講師陣から重要なポイントを解説いたします。
- (2)基礎から応用まで「特別講演」を除く27科目を対象にテストを実施いたします。全ての科目についてテストを受けられた方には、修了証書を発行いたします。
- (3)報告書, 模範解答, 答案用紙, テスト成績表, 修了証書を申込責任者宛に送付しますので、受講者の研修効果を知ることができます。但し、ご希望によりテストを受けずに受講だけでも可能です。

2025年 光応用技術研修会 研修内容

科目	講義内容	講師	時間(分)
1. 光学入門 2. 幾何光学	光の性質や光学部品の機能・像の形態等を図を用いて説明する。レンズにより発生する収差や結像状態を幾何光学を用いて調べる。	元 株式会社ニコン ビジネススタッフセンター 人事部 能力開発室 主幹 齋藤晴司	360
3. 測光	(放射)照度、(放射)輝度といった放射量、測光量の基本的な概念と、それを実際に適用した場合の有用性について、式、図、具体例を用いて解説する。	株式会社ニコン 光学本部 シナジー推進部 部長 中島康晴	90
4. 色彩工学	色の計測の標準となっている CIE 表色系の意味、使い方を分かりやすく解説する。さらに、現在の表色系の問題点に触れ、新しい表色系についても紹介する。	千葉大学名誉教授 矢口博久	90
5. 干渉と回折	波動光学の基礎を講義する。マックスウェルの方程式から始まり、光の反射・屈折、干渉、回折等に係る基礎事項に触れる。	元 東京大学 生産技術研究所 基礎系部門 教授 志村 努	270
6. 結像の評価 7. 近接場光学	結像系の基礎を講義する。分解能、点像分布関数(PSF)、光学的伝達関数(OTF)、回折限界について解説する。回折分解を越えるための超解像技術についても紹介する。	静岡大学 電子工学研究所 教授 川田善正	180
8. 偏光	偏光の性質、身近にある偏光から、偏光計算(ジョーンズ行列、ストークスパラメータ、ポアンカレ球、ミュラー行列)および偏光解析法について概説する。	埼玉医科大学 保健医療学部 臨床工学科 教授 若山俊隆	90
9. レーザー	各種レーザーと発振原理、レーザー共振器と発振条件、半導体レーザーにおける導波モード、横モードと縦モード、近視野像・遠視野像・端面反射率、波面と非点収差、レーザー光のビーム品質、半導体レーザーの応用例。	元 株式会社東芝 研究開発センター 波多腰玄一	90
10. 発光ダイオード	発光ダイオードの構造と発光の原理、発光ダイオードの効率、発光ダイオードからの光取り出し、配光特性、発光スペクトル、白色LEDの構造と発光特性、色温度・演色性、主波長、発光ダイオードの応用例。		90
11. 目視観察用光学機器	目で観るための光学機器として開発され、そして発展してきた装置のうち、眼鏡、顕微鏡、及び一部の望遠鏡について、その用途や光学系の仕組みなどの基礎的なことを解説する。	株式会社ニコン 光学本部 第一設計部 第二光学課 課長代理 相川直志	90
12. デジタルカメラと内視鏡	デジタルカメラと内視鏡について、システムの概要を紹介するとともに、そこで用いられる光学系の構成・特徴を解説する。	元 オリンパス株式会社 光学システム開発 医療光学開発 高頭英泰	90
13. ナノフォトニクス	エバネッセント場の発生原理等を述べた後、プラズモニクスやメタマテリアルなどナノ構造と光波との相互作用によって生み出される様々な光学現象やそれを実現する技術について解説する。	国立研究開発法人理化学研究所 田中メタマテリアル研究室 主任研究員 田中拓男	90
14. 天体望遠鏡と補償光学	天体望遠鏡の原理、地上および宇宙望遠鏡のそれぞれの特徴を最初に解説する。次に、地上望遠鏡において、大気ゆらぎの影響を補正する補償光学について概説する。	自然科学研究開発機構国立天文台 ハワイ観測所 教授 早野 裕	90
15. コンピューショナルイメージング	特殊な光学系と演算処理の組み合わせは多様な撮像を可能にする。リフォーカス、視点移動、焦点深度拡張、距離マップ、超解像などの機能イメージングについて解説する。	大阪大学名誉教授 谷田 純	90
16. メディカルイメージング	医用画像の種類・特徴を概説した後、特にX線画像、CT、核医学等の、電離放射線を用いた医用画像について説明する。さらに断層像再構成法および医用画像の評価についても講義する。	千葉大学 フロンティア工学センター 教授, 副学長 羽石秀昭	90

17. 機械学習入門	機械学習の代表的手法である教師有り学習と教師無し学習について、簡単な例をもとにそれぞれの手法の特徴と概要、さらに今後の発展性について述べる。	東京工業大学名誉教授 長 橋 宏	90
18. プロジェクションシステム	プロジェクターは、急速に技術が進歩している。その基礎からプロジェクションマッピング・VRに至るまで解説する。	3D フォーラム 元 キヤノン株式会社 桑 山 哲 郎	90
19. 回折光学素子による波面制御	回折光学素子及び類似のホログラフィック光学素子の特徴とその光学現象に関して平易に解説するとともに、過去の具体的な応用事例も紹介することで新たな応用を創造する手がかりとする。また最近注目されている幾何位相型ホログラム光学素子についても原理と特長そして応用を解説する。	日本女子大学 理学部 数物情報科学科 学術研究員 非常勤講師 橋 本 信 幸	90
20. 光散乱	最も基本的な光学現象の一つである散乱の基礎について、「光と原子のやり取り」というマイクロな視点から、数多くの図や実例を使って易しく解説する。	有限会社テクノ・シナジー 代表取締役 田 所 利 康	90
21. 光ファイバ通信	光ファイバの導波原理、特長、歴史、製法などについて説明し、光ファイバ通信、光ファイバレーザや光ファイバセンシングなどの応用について紹介する。	東京大学 大学院工学系研究科 電気系工学専攻 教授 山 下 真 司	90
22. 光計測：干渉計測技術の基礎と応用	光波の物理的性質と信号処理を高度に融合した光干渉計測技術の基本原則と干渉縞の解析手法、並びにそれらの応用について紹介する。	光産業創成大学院大学 光産業創成研究科 准教授 花 山 良 平	120
23. 3D技術／VR・AR	人間の立体視、現状の技術として2眼式、多眼式、HMD、スマートグラスについて説明した後、将来の技術として超多眼表示、ライトフィールド表示、ホログラフィーについて説明する。	東京農工大学 大学院工学研究院 生体医用システム工学・ 電気電子工学科 教授 高 木 康 博	120
24. 光学部品加工	ガラスの加工原理、球面レンズおよび非球面レンズの加工方法について説明する。	キヤノン株式会社 イメージング事業本部 宇都宮工場 生産技術部 生産技術第三課 関 谷 忠 幸	120
25. 光学ガラス	光学ガラスの名称、光学的性質、各種試験法、製造方法、並びに最近の光学ガラスを紹介する。光学ガラスを使用する際の注意事項・問題点についても触れ、光学ガラスの特長を生かして有効に使うための案内としたい。	株式会社 オハラ 材料生産センター 研究開発部 光素材開発課 小 栗 史 裕	60
26. 光学プラスチック	高性能な透明ポリマーの開発、設計に必要な光学特性制御(屈折率制御、高透明化)の基本的な考え方について解説する。	公立千歳科学技術大学 理工学部 応用化学生物学科 教授 谷 尾 宣 久	90
27. 光学薄膜	光学薄膜の原理と用途、特性計算や反射防止膜等の各種膜の設計を説明する。また光学薄膜の製造方法やその評価についても概要を紹介する。	株式会社ニコン 生産本部 技術統括部 第一技術開発部 第二開発課 課長 柴 田 亮	120

特別講演

講義内容	講 師	時間(分)
28. フォトグラメトリ フォトグラメトリは古くは写真測量という意味であったが、最近では多視点画像からの3D 構築という意味に変わって来ている。これらを構築する技術について概説する。	東京工芸大学 工学部 メディア学科 電子画像研究室 教授 内 田 孝 幸	90

テストと修了証書の授与

テ ス ト	特別講演を除く、27科目について実施します。
修 了 証 書	全研修課程(全てのテストを含む)を修了された方には修了証書が授与されます。

2025年 光応用技術研修会 カリキュラム

会 場: Microsoft Teams
電 話: 03-3435-9321

時間	9:00	10:00	10:30	10:40	11:00	12:10	13:10	14:40	15:10	15:20	16:30	16:50	17:20	18:00	
月日															
6月 3日(火)	アナウンス		1. 光学入門 斎藤先生(元 ニコン) (2時間)				2. 幾何光学 斎藤先生(元 ニコン) (4時間10分)(休憩10分を含む)								
4日(水)			3. 測光 中島先生(ニコン) (1時間30分)		4. 色彩工学 矢口先生(千葉大学名誉教授) (1時間30分)		5. 干渉と回折 志村先生(東京大学) (4時間50分)(休憩20分を含む)								
5日(木)	6. 結像の評価 川田先生(静岡大学) (1時間30分)		7. 近接場光学 川田先生(静岡大学) (1時間30分)		8. 偏光 若山先生(埼玉医科大学) (1時間30分)			9. レーザー 波多腰先生(元 東芝) (1時間30分)		10. 発光ダイオード 波多腰先生(元 東芝) (1時間30分)					
9日(月)	11. 目視観察用光学機器 相川先生(ニコン) (1時間30分)		12. デジタルカメラと内視鏡 高頭先生(元オリンパス) (1時間30分)		13. ナノフォトニクス 田中先生(理化学研究所) (1時間30分)			14. 天体望遠鏡と補償光学 早野先生(国立天文台) (1時間30分)		15. コンピューショナルイメージング 谷田先生(大阪大学) (1時間30分)					
10日(火)	16. メディカルイメージング 羽石先生(千葉大学) (1時間30分)		17. 機械学習入門 長橋先生(東京工業大学名誉教授) (1時間30分)		18. プロジェクションシステム 桑山先生(3Dフォーラム) (1時間30分)			19. 回折光学素子による波面制御 橋本先生(日本女子大学) (1時間30分)		28. 特別講演 フォトグラメトリ 内田先生(東京工業大学) (1時間30分)					
11日(水)	20. 光散乱 田所先生(テクノ・シナジー) (1時間30分)		21. 光ファイバ通信 山下先生(東京大学) (1時間30分)		22. 光計測:干渉計測技術の基礎と応用 花山先生(光産業創成大学院大学) (2時間)			23. 3D技術/VR・AR 高木先生(東京農工大学) (2時間)							
12日(木)	24. 光学部品加工 関谷先生(キヤノン) (2時間)			25. 光学ガラス 小栗先生(オハラ) (1時間)		26. 光学プラスチック 谷尾先生(公立千歳科学技術大学) (1時間30分)			27. 光学薄膜 柴田先生(ニコン) (2時間)						

2025年 光応用技術研修会 試験時間割

会 場：機械振興会館 6階66号室, 67号室(東京都港区芝公園3-5-8)
電 話：03-3435-9321

時間	10:00	11:00	11:10	12:10	13:10	14:40	14:50	15:50	16:00	17:00
月日										
7月10日(木)	1. 光学入門 2. 幾何光学 4. 色彩工学	休 憩 10 分	16. ディジタルイメージング 17. 機械学習入門	昼 休 み 60 分	11. 目視観察用光学機器 12. デジタルカメラと内視鏡 14. 天体望遠鏡と補償光学 18. プロジェクションシステム	休 憩 10 分	15. コンピュータシヨナル イメージング 19. 回折光学素子 による波面制御	休 憩 10 分	23. 3D技術/VR・AR 20. 光散乱 25. 光学ガラス	
7月11日(金)	5. 干渉と回折 21. 光ファイバ通信		3. 測 光 6. 結像の評価 7. 近接場光学		9. レーザー 10. 発光ダイオード 13. ナノフォトニクス		22. 光計測 27. 光学薄膜		8. 偏 光 24. 光学部品加工 26. 光学プラスチック	

- お願い：1) 研修会テキスト、配布資料、筆記具、関数付き電卓、筆記したノートは必ずご持参ください。
 2) 過去の本研修会 模範解答集をお持ちの方は、試験中は鞆の中におしまいください。
 3) 筆記したノートに模範解答集のコピーを貼り付ける行為は禁止しております。
 4) 研修会テキスト以外の辞書、参考書等の持ち込みはご遠慮ください。
 5) 試験中はスマートフォン等のモバイル機器のご使用は出来ません。
 6) 各テスト開始時間30分を過ぎた場合は、その科目の試験は受けられず、かつ修了証書を発行することが出来ませんのでご注意ください。

参 加 要 領

当協会のホームページ (<https://www.joem.jp/pages/47/>) からお申し込み下さい。

※ 申込受付後、申込責任者様宛に受講票とご請求書をご送付いたします。

※ テキストは原則ご勤務先へ送付しておりますが、在宅勤務のため職場ではなく、ご自宅への送付を希望される方は、「光応用技術研修会 専用申し込みフォーム」の“テキスト送付先ご住所欄”にご自宅の住所をご記入下さい。

【参加費】

テストを受ける場合：1名につき（テキスト代を含みます）

区 分	税 抜 き	消 費 税	税 込 み
正 会 員	130,000 円	13,000 円	143,000 円
賛 助 会 員	162,500 円	16,250 円	178,750 円
一 般	260,000 円	26,000 円	286,000 円

テストを受けない場合：1名につき（テキスト代を含みます）

区 分	税 抜 き	消 費 税	税 込 み
正 会 員	110,000 円	11,000 円	121,000 円
賛 助 会 員	137,500 円	13,750 円	151,250 円
一 般	220,000 円	22,000 円	242,000 円

※参加費の払い戻しは致し兼ねます。お申込みされた方のご都合が悪くなった場合は、代理の方がご出席下さいます様お願いします。

※当協会に入会されますと本技術研修会をはじめ、その他の諸事業への参加費が割安になりますので、この機会に入会をお勧めします。入会ご希望の方は、当協会へお問い合わせください。

【定 員】 90名

【申込期限】 2025年5月20日（火）まで

※定員になり次第、申込期限前でも締め切らせていただきます。

【申 込 先】 一般社団法人 日本オプトメカトロニクス協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番22号 機械振興会館 別館4階

TEL : 03-3435-9321 FAX : 03-3435-9567 E-mail : info@joem.or.jp

【参加費振込先】 口座名：一般社団法人 日本オプトメカトロニクス協会

取引銀行：みずほ銀行 神谷町支店 普通預金 2187994

※ 受講料のお支払いはお申込みされた翌日から受講後一ヶ月以内にお手続きしていただきたくお願い申し上げます。

【講義会場】 Microsoft Teams

【試験会場】 機械振興会館 6階66号室・67号室（東京都港区芝公園3-5-8）

<https://www.joem.jp/pages/64/>



（電 話）03-3435-9321

（所在地）東京都港区芝公園3丁目5番8号

（交 通）東京メトロ 日比谷線 神谷町駅下車（徒歩8分）

都営地下鉄 三田線 御成門駅下車（徒歩10分）

都営地下鉄 大江戸線 赤羽橋駅下車（徒歩10分）

都営地下鉄 浅草線 大門駅下車（徒歩15分）

JR山手線・京浜東北線 浜松町駅下車（徒歩17分）

東京モノレール 浜松町駅下車（徒歩17分）

【連絡先】 一般社団法人 日本オプトメカトロニクス協会 事務局

TEL : 03-3435-9321 FAX : 03-3435-9567

E-mail : info@joem.or.jp

人材開発支援助成金について

事業主が、雇用保険の被保険者である従業員に対して、職業生活設計に即した自発的な職業能力の開発及び向上を目的として、計画に基づいた教育訓練などを行った場合、それにかかった費用の一部が助成される制度です。本技術講座も事業主が一定の条件を満たしていれば、この制度のうち「訓練給付金」の受給の対象となります。

詳しくは、https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html をご覧ください。